

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	電気通信工学科						
科目名	電気回路 I (再)						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期集中		
必修・選択の別	必修(組み込みシステムコース)/必修(電気エネルギーコース)/必修(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電流・電圧など、電気回路で使用する電気基礎量についての知識を得る。(A6,A7) ・ キルヒホッフの法則を理解し、電流平衡式・電圧平衡式を正しく記述することができる。(A7) ・ オームの法則を理解し、直流電源と抵抗素子のみで構成される回路を解析することができる。(A7) ・ 合成抵抗や合成コンダクタンスの計算ができる。(A7) ・ 電力を理解し、簡単な電力の計算ができる。(A7) 						
日程と内容	第1回 : 09/16 : キルヒホッフの法則、オームの法則、合成抵抗と合成コンダクタンス、電力 第2回 : 09/30 : 回路方程式 第3回 : 10/07 : 重ねの理、テブナンの定理、ノートンの定理、電源の変換、最大電力 第4回 : 10/14 : 演習と質問 第5回 : 10/21 : 単位認定試験 第6回 : 10/28 : 単位認定試験 第7回 : 11/11 : 単位認定試験 第8回 : 11/18 : 単位認定試験 第9回 : 11/25 : 単位認定試験 第10回 : 12/02 : 単位認定試験 第11回 : 12/16 : 単位認定試験 第12回 : 01/13 : 単位認定試験						
成績評価基準	定期試験	100%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	再履修授業なので、一度履修して不合格になった学生を対象としている。したがって、本来の授業とは異なった手法で授業内容を構成している。第1回目から第4回目まで知識の整理・復習を行い、5回目から12回目まで単位認定試験(「定期試験」に相当)を行い、可否を判定する。この手法により、問題を解くことに慣れて、その結果この授業の目標が達成される。単位認定試験を5回以上受験して不合格になった学生は2名であり、他の不合格者は受験回数自体が少ないので不合格でもやむを得ない。実質の到達度は29/31である。						
反省点	毎年、5時限目を利用して開講する再履修の集中講義であるので、学生にも気の毒な面はあるが、時間をかけて(問題を沢山解いて)合格して欲しいので、この方式を長年続けてきた。						
来年度の計画	引き続き、同じ方式で再履修科目を実施する。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業アンケートを実施する時期の関係で、アンケート回答者は合格できていない学生ばかりである。したがって、授業内容の理解が低い(3.8)のはやむを得ない。一方、総合評価8.2は再履修の集中講義方式が5時限目であるにもかかわらずさほど不満を感じていないと捉えられる。						
履修登録者数	45名	定期試験 受験者数	41名	合格者数	29名	合格率	71%